

氏名（本籍）	わに けんた 和迩 健太（滋賀県）
学位の種類	博士（医学）
学位授与番号	乙 第 78 号
学位授与日付	平成 30 年 3 月 15 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学位論文題目	適応障害患者における Wechsler 式知能検査所見と臨床的特徴の検討
審査委員	教授 岡 三喜男 教授 森谷 卓也 教授 佐々木 環

論文の内容の要旨・論文審査の結果の報告

本研究は、発症要因が明確でない適応障害に対し、最近注目されている精神疾患と認知機能障害との関連から解析を行った。今回、精神疾患において最も頻用されている認知機能検査の成人用 Wechsler 式知能検査第 3 版（WAIS-III）を用いて、適応障害の認知機能を評価する初めての研究を計画した。WAIS-III は、全検査知能（指数 FIQ）を言語性（指数 VIQ）と動作性（指数 PIQ）に二分して評価し、さらに言語性は言語理解（VC）と作動記憶（WM）、動作性は知覚統合（PO）と処理速度（PS）に分けて、規定の下位検査によって指数化し、平均を 100 として比較検討した（FIQ<70 の精神遅滞は除外した）。

本研究は、川崎医科大学倫理委員会の承認（受付番号 2657）を得た後、川崎医科大学附属病院心療科を受診した適応障害（DSM-5）患者で、WAIS-III を実施した患者 50 名（男/女 29/21、14～48 歳、平均年齢 27.6 歳）を対象とした。具体的には、認知機能評価 WAIS-III、全般的機能評価（GAF）、臨床症状評価（初診時主訴と社会参加の有無）で評価した。WAIS-III は群指数パターンによって、対象者を Ward 法によってクラスタ解析し分類した。

結果的に 3 分類され、クラスタ 1（n=17）、クラスタ 2（n=17）、クラスタ 3（n=16）は、FIQ、VIQ、PIQ で評価すると、IQ はクラスタ 3>クラスタ 1>クラスタ 2 の順に有意差をもって高かった。さらに各々のクラスタは知能指数と群指数によって、クラスタ 1 は中 IQ 低 WM 群、クラスタ 2 は低 IQ 低 PS 群、クラスタ 3 は高 IQ 低 PS 群として、有意差をもって特徴づけられた。臨床的な特徴の解析では、クラスタ 3 は有意差をもって他クラスタに比較し身体主訴が少なかった。また全般的機能評価（GAF）と各群指数の関係では、GAF は作動記憶（WM）とのみ有意な正の相関が認められた（ $p=0.38$ ）。

結果のまとめ：適応障害患者の WAIS-III 群指数パターンによるクラスタ分析では、3 分類された。適応障害患者は WM と PS が低い。クラスタ 3 高 IQ 低 PS 群は身体主訴が低い。適応障害患者では GAF と WM に正の相関がある。

学位審査会（最終試験）の結果の要旨

適応障害は、ストレスを原因とする情緒および行動障害で、心的外傷後や急性ストレス障害ではなく、うつ病や不安障害に該当しないものを指す。近年、学校や職場でのストレスによって抑うつ状態になり、心身の不調による休職や不登校など社会的または職業的（学業上の）障害を起こす適応障害患者が増加し、大きな社会問題となる精神疾患である。現在、教育や社会現場において多く潜在していると推測される適応障害（約 100 万人）について、認知機能の視点から解析した画期的な臨床研究と評価される。認知機能とは、感覚、運動、注意、記憶、言語、思考、意志など局所的ないし連合的な脳機能に関連している。本研究の最終目的は、適応障害の患者毎に認知特性を評価して、患者の治療に連携させることにある。とくにクラスタ解析によってクラスタ 1（中 IQ 低 WM 群）、クラスタ 2（低 IQ 低 PS 群）、クラスタ 3（高 IQ 低 PS 群）の 3 分類し、その特徴を認知機能の面から明確にし、各々の弱点を明らかにした点は評価できる。その弱点は、診療面において補うべきまたは指導する点において極めて有益と判断される。一方、この研究の限界として、症例数が少ないこと、対象患者に偏りが生じている可能性、様々な症状に対応した解析が必要であること、遺伝的および成育段階での環境の問題などを考慮する必要があると、申請者も承知していた。以下に審査委員からの質問と申請者の回答の一例を示すが、いずれの質問に対しても真摯かつ明解な回答が得られ、申請者の幅広い専門領域の知識も確認された。質問：高 IQ 群と低 IQ 群で PS が低い原因について、回答：低 IQ 群では全体の指数が低く、高 IQ 群は症状が強い傾向にあったと回答していた。

審査の結果、申請者は学位を取得するに価する知識と見識を備え、合格とした。